

【資料6】

委員からの質問・意見集約（学校再編）

項目	No.	質問・意見の概要	回答
論点① 校舎や体育館、武道場等の新築又は長寿命化改修等による施設整備の方向性	①	校舎や体育館、武道場は新築しかない。長寿命化改修より新築の方が40年間の費用が安いが、それでも202億円という費用が必要であることを理解した中で、子供たちのため、未来への投資と考え、雨漏り狭い机、狭い教室ではなく、安全安心でよりよい環境を校舎等を新築し、早期に整えてほしい。	学校施設の目指すべき姿は、生徒が安全かつ快適に学ぶことができる教育環境の充実を図ることであり、また、災害時の避難所機能を有する施設として、災害に強い学校施設の整備を図ることと考える。教育委員会事務局としては、今回、耐力度調査の結果等から中間中学校及び中間東中学校の両敷地において、校舎等は新築による整備を行い、今の求められている多機能かつ高機能な新しい学校施設を構築したいと考えている。
	②	現在の物価の状況から、学校再編の取組が遅れれば遅れるほど、同じ設備を整備するとなれば、現在の費用よりも多額の費用が必要になると思う。コストの面からも早期の新築による施設整備を切望している。 また、保護者や子供たちは、学校が新しくなることを期待しており、学校再編が遅れれば遅れるほど、保護者や子供たちは、本当に学校が新しくなるのか不安を感じる。	中間市コミュニティ広場・学校再編検討委員会の開催とともに、教育委員会事務局では、新中学校の通学区域を検討する通学区域審議会を開催している。本年度中には、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、新中学校施設整備実施計画を策定し、学校再編の取組を進めるとともに、保護者や子供たちの不安を少しでも解消できるよう、学校再編だよりなどによる情報発信に努めたいと考えている。
	③	子供たちは今の学校の環境が当たり前になっている。私たち大人が、新しい学校施設の状況について、意見を交わして、よりよい環境を子供たちに整えてあげることが、役目ではないか。	ご意見のとおり、中間市コミュニティ広場・学校再編検討委員会での意見交換を踏まえ、時代のニーズに合った学校づくりに努めたいと考えている。

項目	No.	質問・意見の概要	回答
	④	施工期間が長くなれば、新しい施設整備の恩恵を全く受けることができない子供たちがいることとなる。恩恵を受けることができない子供たちへの支援を行う必要があるのではないか。	ご意見のとおり、大規模な造成工事を行うと、造成工事だけで、2年ほどの期間を要することとなり、設計や施工を考えると、新しい学校に通うことなく、卒業を迎える生徒がいると想定している。教育委員会事務局といたしましては、学校施設整備を行う上で、施工時期にあたり新校舎等に通うことなく卒業を迎える生徒の皆様への支援策を検討したいと考えている。
論点② 敷地内の高低差の解消 や樹木が繁茂した法面 の整備の方向性	⑤	建物以外の法面等の整備について、当初の想定を上回る費用が発生するのであれば、一度立ち止まって、別の敷地の検討を行うべきではないか。中学校敷地だけではなく、小学校敷地を踏まえて検討を行うべきではないか。	教育委員会事務局としては、これまでの住民説明会やパブリックコメントを経て、学校施設再編による充実した教育環境の構築について、市長に提言を行い、令和5年度や令和6年度の総合教育会議での意見交換を踏まえ、中学校4校を2校に再編、中学校を先行した再編、学校敷地を活用した再編等、両敷地の敷地の特性から様々な改善が必要であることを報告した中で、全市的なまちづくりの見地から、東西地域に各1校配置し、市内全域を概ね3kmの通学圏内に網羅でき、通学負担を軽減できる中間中学校と中間東中学校の敷地が選定されたと認識しております、これ以上、遅れることなく、学校施設の老朽化や教育内容の多様化に対応できる教育環境の整備に早急に取組んでいく必要があると考えている。 小学校の再編については、令和7年5月に開催した総合教育会議において、中間西小学校、中間北小学校、底井野小学校の機能を中間中学校に移転するという案が、市の考えとして示された段階であり、今後、より検討を深めた中で、取組みを進めていく必要があると考える。

項目	No.	質問・意見の概要	回答
<u>論点③</u> 安全安心な通学環境や 災害時の避難所として のアクセス道の整備の 方向性	⑥	安全安心な通学環境となるようアクセス道の整備を行ってほしい。	ご意見のとおり、生徒の安全安心な通学環境を確保していくことが重要と認識している。今回の検討において、アクセス道の新設又は新設できない場合は、運用面で歩車分離を図るなど検討を行っている。
<u>論点④</u> プール施設の整備の 方向性	⑦	屋外のプール施設では、猛暑により午前中から授業が困難であり、やけどなどの危険がある。安全面、維持管理の面からも学校以外の場所に集約して、屋内のプール施設に学校から送迎する方法を検討してはどうか。	プール施設については、現在、利用期間が夏季の2か月程度に限定されていること、授業の実施の可否が、猛暑や降雨等の天候に影響されること、清掃や水質管理等の維持管理における教職員の負担が大きいことから、新中学校施設整備においては、プール施設を整備せず、コミュニティ広場の公共施設ゾーンに屋内型の温水プールを整備し、各学校からバス等で通う形式が望ましいと考えている。